

保育のヒント～「科学する心」を育てる～

素材・環境の工夫～水・砂・土～／福岡市立雁の巣幼稚園

子どもたちが主体的に関わる園の環境についてどのような工夫をしていますか？

「科学する心」を育むために、子どもたちの遊びをよく見て、興味・関心を捉えたことを環境構成に繋げている園の実践をご紹介します。子どもたちが、「水・砂・土」に関わる姿から、素材の意味や環境の役割を押さえ、「写真を活用した見て分かる素材・環境」を図表にして明らかにしています。



● 水・砂・土で遊ぶ子どもの姿から…／3～5歳児

日々の保育の中には、様々な事象に気付き、興味深く見たり触ったりしながら探求する子どもの姿がある。これらの姿を大切に育てていくために、保育者は遊びの素材や環境を常に意識しながら、保育にあたるのが重要であると考えている。

そこで、どのような素材や環境をいつ、どこで、どのくらい出すのかなど、保育計画を立てる際に判断となる基準を明確にしていきたいと考えた。

● 1

まずは、「水・砂・土」に関わる子どもたちの姿を各年齢ごとに記録を取った。また、遊びの姿から、子どもたちの興味・関心はどこにあるのか、何を楽しんでいるのか、経験している内容などを読み取り図表にまとめた。（図表1）

図表1

年齢	4/2	4/2	4/1	4/2	4/2
3歳					
4歳					
5歳					

図表1（画像クリックでPDFが開きます）

● 2

さらに、図表1の子どもたちの姿を基に、「育てたい幼児像」を明らかにした上で、子どもにとっての「素材の意味」と「環境の役割」を捉え年齢ごとに図表にまとめた。（図表2）

図表2

年齢	幼児像	素材・環境	役割	遊びの姿
3歳				
4歳				
5歳				

図表2（画像クリックでPDFが開きます）

ここでいう素材や環境とは…

「素材」とは

- 自然物（砂、土、水、石、植物など）
- もとになる材料（紙、新聞紙、広告紙、ダンボール、空き箱など）

「環境」とは

- 生活や遊びに必要な物・道具
- 身近な自然現象

✦ 振り返って

子どもが素材をどのように生かしているのか、またどのような環境に興味・関心をもっているのかを中心に、実践を進めてきた。

- 素材・環境の提示を図表に示したことは、3歳児、4歳児、5歳児の縦の発達のつながりを見るために大変有効であった。
- 保育者は、幼児の新たな発見や感動に寄り添い、育てていきたい姿を意識して保育にあたる必要がある。
- 各年齢に即した心情・意欲・態度を育てていくために、子どもの行動から「今、この子の中で何が育っているのか」を細やかに捉えていくことは重要であり、「科学する心を育てる」保育に繋がっていく手立てが整理できた。
- 素材の特性に着目し、素材の意味を捉えたことで、子どもにとって価値のある環境に繋がり、子どもたち主体の実践を展開することができた。
- 道具や用具の役割を細部にわたって表にまとめられたことは、保育者が各年齢に応じた環境を提示する基準となった。

[関連事例：実践事例集 Vol.12 P.8～9 「色水作ろう」](#)

無断転載を禁ず。引用する場合は右記を必ず明記願います。「(C)公益財団法人 ソニー教育財団 ソニー幼児教育支援プログラム
幼児教育保育実践サイト <http://www.sony-ef.or.jp/sef/preschool/>」